

# 十勝清水町から

清水町担い手支援アドバイザー

上谷明美

こんにちは。今年の十勝は根雪が早く、あたり一面真っ白です。

ただ十二月だというのに雨が降ったり、日中の気温が高かったりといつもの冬とは違います。暖かいのはありがたいですがやはり冬らしくないと一年の天候が心配でなりません。

私も冬眠生活に入りのんびり「□□□□…とききたいところですが子供の少年団の送り迎えやら、地域の婦人部の集まりやら毎日忙しくすごしております。子供達の通う小学校も今年創立一〇〇年を迎え、記念式典などの準備などにも参加しています。

一〇〇といえば「地域と農業」も今号が一〇〇号の節目となりました。おめでと〜いおめでとうございます。

今回も書きためておいたエッセーを。

## ◆「成長期」

「おはよう、大きくなっているか体重測ってくる」これが長男の毎朝の挨拶だ。保育所の年中になった彼の一番の関心ことは、どうすれば体が大きくなるか。食事の時も「ほうれん草って体にいい?」「春雨食べたらおあきくなる?」「とやたらと聞いてくる。ほうれん草はわかるが春雨はいまいち効果がわからない。「なるなるーたんばく質だからめっちゃくちゃ体にいいよ。」といかにもありがたい。そうに答えておく。そうすると彼は本当に綺麗に残さず食べて



## 上 谷 明 美 (かみや あけみ) さん



農業 (十勝清水町)

昭和43年生まれ 福島県出身

14年前、憧れの北海道に嫁ぐべく婚活。

見事に射止めた(?) 夫と夫の両親と子供3人の7人家族で小麦、ビート、小豆、金時豆、かぼちゃ、にんにく、スイートコーンなど36haを耕作しています。

趣味：刈払い機での草刈り…ホームセンターに行くのと刈り払い機が気になって仕方ありません。

「なんか大きくなった気がする」とまた体重計に向かうことになる。

もりもり食へると本当に四百グラムくらいは体重が増えている。残念ながらその後トイレに行つて二百グラムくらいはすぐに減つてしまうのだが…。

体重計の読み方も最初はいいいち

「お母さん、何キロになつたか見てー。」だつた。今ではすっかり

「にじゅつてんさん」などとちゃんと読めるようになっていた。

うっかりしているとお風呂の時に私の体重まで大きな声で読み上げられるので今はこっそり体重を測っている。

今日もモリモリ食べて体重計に乗る彼のうしろ姿を見ながら「あれぐらいこまめに体重計に乗ればお母さんのダイエットも成功するのになえ…」と小学生の娘にぎつい一言もいだけだ。成長期がうらやましい。

### ◆「餅つき」

わが家は昔ながらの臼と杵で餅をつく。結婚して初めての年の暮れ、テレビで見ただことの無い本物の臼と杵での餅つきに何を手伝えればよいかわからずにオロオロしてばかりでちっとも役に立たなかつた。

あれから十数年。すこしずつ出来ることが増えて今は夫と二人で餅をつきあげ



毎年やっていてもその年の気温やもち米の種類、炊き方、水加減などで上手く出来たり出来なかつたりとなかなか難しい。

特に気温は重要だ。わが家の臼は石なのでかなり重い。移動が大変なのと室内だと床が抜ける心配もあるので外で餅をつく。十一月、氷点下での餅つきはまさに時間との勝負。石臼がどんどん冷えていくので手早く作業しなければならぬのだが蒸しあがったばかりのもち米はとにかく熱い。沢山の水をつけて手返ししたいのだが冷ましすぎると硬くなるのであるべく我慢だ。初めは「はいよ」と元氣よく入れていた合の手が「アチッ」「アチッ」と悲鳴にかわっていく。私の手のひらが赤くなり夫の額に汗がにじむ頃、白くつややかな餅がつきあがる。

もち米は福島の私の実家から送られてきたものだ。震災のあった年から数年は放射能の影響を心配して米を送ってもらえなかったが今年は安心して食べられる

から…とまた送ってくれるようになった。少しづつではあるが穏やかになりつつある故郷の景色を思いつつ食べたつきだの餅はいつもより何倍もおいしかった。

### ◆「油断大敵」

「ガタン」大きな音がして車が左に傾いた。「まずい、パンクだ」スピードを落として、なんとか「コンビ」の駐車場に車を止めた。とりあえず事故にならなかつた事にホッとした。車から降りて大きな音のしたあたりを見るとパンクではなくポルトが二本も折れてタイヤが斜めに外れかけていた。

何日も前から症状はあった。走る度に助手席のあたりで「コンコン」と音がしていた。タイヤを蹴飛ばしてみても空気はある。夫に「何か変な音がするんだわ」と相談すると「タイヤのシャフトに雪でもつい



てんだべ」との返事。そう言われて疑いもせずに毎日のんきに車を乗り回していた。その日の午前中も買い物に出かけたのだが前より音が大きくなっているのが気になり、また夫に相談すると「今年は寒いからくっついた雪もなかなかとけないんだな…」それならばと日に当てる雪を溶かそうと車を車庫にしまわず庭で日光浴をさせてみた。夕方、子供のお迎えに出かけると、ゆるんだポルトが限界を

むかえ冒頭の出来事となった。夫にSOSの電話を入れると罪悪感もあつたが、えらく神妙な顔で駆けつけてくれた。

最近も別の車で出かけた時に何やらガタガタと嫌な振動を感じた。家に帰り夫に報告すると「雪でもついて…」と言いかけたが慌ててやめてすぐにタイヤの点検をしてくれた。

油断大敵である。

## ◆「節分今昔物語」

「子供ら、小屋に魚さしてごい」母親にそう言われて、まだ温かく香ばしい匂いにする鰯の頭を竹串に挿す。私の故郷では節分に鰯などの生臭い魚を母屋や小屋などの軒下に挿して鬼の魔よけにする風習があった。薄暗くなつた外に行くのは普段でも怖いが今日は節分、「鬼が来るかも」と思うといつもの何十倍も恐ろしく、兄のジャンパーの袖をギュッと掴んで離さなかつた。家の玄関、外にある何箇所かの納屋などに鰯を挿して回るのは子供の仕事だった。一番遠くの納屋に魚を挿し終えると、兄が走りだすので泣きながら後を追つた。家に戻ると、煎つた大豆を一升マスに入れて父親が神棚の前で丁寧に頭を下げた。次の瞬間「鬼は外、福は内」と威勢よく豆をまく。バラツ、バラツと音を立てて降ってくる豆を兄と競いながら夢中で拾つた。

時代は進み、平成のわが家。バラバラと降ってくるのはミニチョコレイトに



飴やガム。

去年までは落花生

もまいていたが子供たちが見向きもしないので今年はお菓子だけになった。スーパーでも（豆まきコーナー）には小さな個装のお菓子がならんでいるから我が家だけの新習慣ではないらしい。甘いお菓子では鬼も逃げまい…と外にだけは煎つた大豆を撒きに行く。

私が教えなければわが子は節分の煎り大豆や落花生も知らずに大きくなるだろう。

子供達がお菓子に見向きもなくなつたころ、鰯の頭を挿し、煎つた大豆をまく昭和の豆まきをしてみよう。

## ◆「あとがき」

一年間のお付き合ひありがとうございました。

何の地位も特技も持たない私がふとした縁でこのような機会をいただいたことに感謝しております。私の日常のつぶやきが文章になり冊子にのせていただいたものを、遠く離れて暮らす両親に送るととても喜んでくれ親孝行もできました。これからも笑顔をやさず、楽しく農業を続けます。後継者となった息子といつかこのエッセーを読む日を夢見て…。

上谷さん、一年間にわたり微笑ましい話題を提供していただき、ありがとうございました。